

共同助成(福島県遊技業協同組合連合会)

## 『LIFEに寄り添い続ける』包括サポートプログラム」事業

### 被災者の継続的支援やニーズの対応に 地元で学ぶ学生が若い力で取り組む

2011年3月に起きた東日本大震災により、多くの人々が避難生活を余儀なくされた。福島県内では多くの震災関連死、原発事故による長い避難生活など多くの課題を抱えている。そうした状況の中で、福島県で学ぶ大学生たちが学生だからこそできる地道な「寄り添い」復興支援を旗印に、住民のニーズに合わせた活動を行っている。



復興公営住宅・仮設住宅の集会所で人的交流を実施



学生たちは被災者に寄り添いながら生活を支援

#### 復興住宅や仮設住宅で暮らす被災者の 孤立死や自死を防ぐ活動に取り組む

「東日本大震災から8年が経過し、復興が着実に進んでいる中でも、震災関連死の防止や被災地域の復興、子どもたちに対する支援など、まだまだ対処すべき課題やニーズはたくさんあります。私たちは仮設住宅、復興公営住宅、避難指示解除地域で現在、生活している被災者の方々の孤立死や自死といった震災関連死を防止することを目的に活動を行ってきました。被災3県の中で福島県は震災関連死が最も多く、生活の場が仮設住宅から復興公営住宅、避難指示解除地域に変化したことで、再び震災関連死の危険性が高まっています」

そう話すのは、学生団体の福島大学災害ボランティアセンター。同団体は、東日本大震災直後から被災者の継続的な支援、様々なニーズ対応に関わりたいという学生の受け

皿となることを目的に2011年5月に設立された。被災者を孤立させないこと、被災者の心身の健康の維持、子どもや地域の未来づくりを理念に、これまで多くの活動を行ってきた。最近では、避難指示解除地域での地域づくりなどの新たな活動にも取り組んでいる。

同団体の活動は、大きく3本の柱で構成されている。①「過去に寄り添う」では、福島県南相馬市での復興ボランティア、②「今に寄り添う」では、復興公営住宅・仮設住宅(見なし仮設含む)の自治体と協力・協働した生活支援、③「これからも寄り添う」では、2015年に避難指示解除地域となった福島県田村市都路地区での人的交流事業を実施している。いずれの活動も学生だからこそできる地道な「寄り添い」を基盤とするもので、孤立死や自死を防ぐということに関して、十分に活動の成果が出ていると実感しているという。

#### 東日本大震災で被災した住民の 過去と、今と、これからに寄り添う活動

過去に寄り添う活動では、南相馬市ボランティア活動センターと連携し、帰還を希望する住民の生活環境・住居環境を整えるため、地震や津波で被害を被った家財の片づけや震災ゴミの処理などを行った。

今に寄り添う活動では、復興公営住宅・仮設住宅に暮らす住民の引きこもりを防止し、孤立死・関連死を発生させないために、季節親睦活動(お花見会、バーベキュー会、芋煮会など)、住民交流・コミュニケーション支援活動(足湯や昔あそびを活用したお茶会サロン〔通称:福茶サロン〕)、高齢者サポート拠点や仮設住宅などでの健康づくり・介護予防のサロン活動、学生が仮設住宅に居住しながらご近所付き合いなどを行う仮設住宅拠点化生活支援事業(通称:いるだけ支援)などを行った。

これからも寄り添う活動では、住民と一緒に農作業を行うことで賑わいを取り戻し、学生を介して避難指示解除地

域のコミュニティを再構築するため、古民家再生、農地再生、他大学の学生の呼び込みなどを行った。

12月に復興公営団地で行ったクリスマス会では、会の終了後、参加した一人の女性住民から、「今日はとても楽しかった。ここに来て、みなさんと色々なことができて毎回、何歩も前進している気がする。今日は特に楽しかったから100歩は進んだかな」と、嬉しそうに声を掛けられたことが特に印象深く心に残っているという。同団体では、これまでの活動を継続しつつ、今後は被災者の生活の場が変化していくことに対応し、その場所ごとのニーズに応えられるようにしていきたいという。

#### 福島県遊技業協同組合連合会より

地元の学生が取り組む被災者に寄り添った支援活動は、孤立死や自死を防ぐ重要な活動だと思い支援しました。地元の若い力が被災者を助け復興支援に取り組み姿は、とても心強く思います。



自治体と協力して夏祭りを実施



小高区の荒地を整理する復興ボランティア作業

助成団体:(学生団体)福島大学災害ボランティアセンター <http://fukudai-volunteer-center.jimbo.com/>



#### おかげさまで妥協することなく企画通りに活動を実行できました

時代の流れとともに、東日本大震災に関わる団体に対する助成が減ってきています。しかしながら福島県及び被災者の方々が抱える課題はまだまだ存在し、私たちの団体も含め、そうした課題に取り組もうとしている団体がたくさんあります。そういった団体が自分たちの活動に取り組めるよう、ぜひ今後ともご協力いただければ嬉しいと思います。

(学生団体)福島大学災害ボランティアセンター  
統括マネージャー 武田 若菜さん